

「佐渡・越後の文化交流史研究」 平成17年度の活動

研究代表者 萩 美津夫

平成17年度は、同プロジェクト代表の筆者が、「海外先進教育研究実践支援プログラム」の採択を得て、3月末より9月半ばまで留守にしたため、活動は2期を中心に行われた。

平成18年1月25日(水)午後6時00分～8時30分まで総合教育研究校舎A棟3階 学際交流室において、研究会を開催した。報告者、題目は下記の通りである。

報告者：萩美津夫（人文学部教授，超域研究機構兼務）

題 目：「ササン朝ペルシアの宮廷音楽」

今回のテーマは、地域的には直接、本プロジェクトとの関連は希薄だが、ササン朝ペルシア文化は、シルクロード、中国、あるいは朝鮮を経由してわが国にいくつかの美術工芸品をもたらしているように、文化交流という視点での関わりをもって考える事のできるものである。

研究成果として、本年度も例年通り、『佐渡越後文化交流史研究』6号を刊行した。内容は、以下の通りである。

資料紹介

池田哲夫 「佐渡冠婚葬祭調査要目」

報告

新潟大学人文学部芸能論ゼミ

「平成12・13・15年度調査報告－柏

崎市女谷の綾子舞（2）」

今年度も、『佐渡越後文化交流史研究』7号の刊行を予定している。